

2019年11月11日

報道関係者各位

一般財団法人阪大微生物病研究会

株式会社 BIKEN 瀬戸事業所におけるワクチン培養液の流出について

一般財団法人阪大微生物病研究会（本部：大阪府吹田市、理事長：山西弘一）の子会社である株式会社 BIKEN（本社：香川県観音寺市、社長：上田善啓）の瀬戸事業所^{※1}において、ワクチンの原料である弱毒ポリオウイルス3型（セービン株）^{※2}を含む培養液100L（ウイルス最大 10^{13} 個含む）が、適切な不活化処理（死滅させること）を施さないまま排水されたことが、8日発覚しましたので、報告いたします。

流出したセービン株は、野生株とは異なりヒトへの病原性が極めて小さいことから^{※2}、ワクチンとして広く用いられ、日本でも平成24年まで経口生ポリオワクチンとして経口投与されていたウイルス株です。さらに、培養液は海水で非常に濃度が薄められ、ウイルスは数週間で死滅する^{※3}ことや、国内のポリオワクチンの予防接種率は非常に高く維持されていること^{※4}からも、人体への影響はないと考えております。

今後、さらに念を入れて、第三者機関で流出ウイルス株の最終確認を行うとともに、環境への影響および原因調査を行い、しかるべき対応と再発防止策を検討してまいります。

地域の皆様をはじめ、関係者の皆様にご心配をお掛けしますことを深くお詫び申し上げます。

以上

・安全性に関する情報(下線部)を追記

※1 瀬戸事業所：香川県観音寺市瀬戸町4丁目1番70号

※2 流出した株は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第20項から第23項までの規定に基づき、人を発病させるおそれがほとんどないものとして厚生労働大臣が指定する病原体等」に該当する。

※3 Risk assessment, risk management and risk-based monitoring following a reported accidental release of poliovirus in Belgium, September to November 2014; Erwin Duizer Eurosurveillance Volume 21, Issue 11, 17/Mar/2016

※4 一般社団法人日本ワクチン産業協会「2019 ワクチンの基礎」より